

出来事（2015年10月）

1. 新規の食品添加物の指定

10月は、新規指定はありません。（現在の指定添加物：449品目。）

現在、過酢酸製剤（過酢酸、オクタン酸、1-ヒドロキシエチリデン-1, 1-ジホスホン酸）、亜セレン酸ナトリウム、次亜臭素酸水、アスパラギナーゼ（*Aspergillus oryzae* NZYM-SP株）の新規指定、硫酸亜鉛、亜塩素酸ナトリウムの使用基準の改正に向けた手続きが進められています。

2. 機能性表示食品の届出

4月17日から、消費者庁のホームページ「機能性表示食品に関する情報」に掲載されています。

<http://www.caa.go.jp/foods/index23.html>

これらを消費者庁の区分に従って、集計すると以下のようになります。

サプリメント	その他加工食品	生鮮食品	合計	撤回
67品目	51品目	2品目	120品目	1品目*

*「ビルベリー」（森下仁丹株式会社）の撤回届出書が、6月1日に、「北の国から届いたビルベリー」（八幡物産株式会社）の撤回届出書が、9月30日に受理されたとのことです。

こうした中で、9月30日、消費者庁食品表示企画課より、「機能性表示食品の届出書に当たっての確認事項」が通知されました。 http://www.caa.go.jp/foods/pdf/todokede_kakunin.pdf

3. 組換え DNA 技術応用食品添加物

○安全性審査が終了し公表された遺伝子組換え添加物（19品目、最終：2015年5月11日）

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11130500-Shokuhinanzenu/0000071167.pdf>

○安全性審査が終了した遺伝子組換え添加物リスト（66品目、最終：2015年10月6日）

L-システイン塩酸塩（*Pontoea ananatis* CYS-No.1株）（味の素株式会社）

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11130500-Shokuhinanzenu/0000071168.pdf>

○安全性審査継続中の遺伝子組換え添加物リスト（2015年8月1日現在）

エキソマルトテトラオヒドロラーゼ（MDT06-228株）、アスパラギナーゼ（*Aspergillus oryzae* NZYM-SP株）、6- α -グルカノトランスフェラーゼ（NZYM-RO株）、L-システイン塩酸塩（CYS-No.1株）

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11130500-Shokuhinanzenu/0000071169.pdf>

4. 食品の放射能問題

（原子力災害対策特別措置法第20条第2項の規定に基づく食品の出荷制限）

① 10月は、新たな出荷制限等はありませんでした。

② 出荷制限：福島県、青森県、岩手県、宮城県、山形県、茨城県、栃木県、群馬県、

埼玉県、千葉県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県の一部の食材（10月23日現在）

5. 赤肉 (red meat) と加工肉 (processed meat) による発がんリスク (WHO・IARC)

IARC モノグラフ第 114 巻で、赤肉 (red meat) と加工肉 (processed meat) による発がんリスクが発表される (10 月 26 日) こととなり、関連の記事も出ています。

10 月 26 日の IARC のプレスリリース

http://www.iarc.fr/en/media-centre/pr/2015/pdfs/pr240_E.pdf

赤肉 (red meat) : ヒトに対しておそらく発がん性がある (グループ 2A)。

Red meat refers to all types of mammalian muscle meat, such as beef, veal, pork, lamb, mutton, horse, and goat. (牛、小牛、ブタ、子羊、マトン、馬、ヤギ)

加工肉 (processed meat) : ヒトに対して発がん性がある (グループ 1)。

Processed meat refers to meat that has been transformed through salting, curing, fermentation, smoking, or other processes to enhance flavour or improve preservation. Most processed meats contain pork or beef, but processed meats may also contain other red meats, poultry, offal, or meat by-products such as blood.

10 月 26 日の IARC の Q&A

<http://www.iarc.fr/en/media-centre/iarcnews/pdf/Monographs-Q&A.pdf>

http://www.iarc.fr/en/media-centre/iarcnews/pdf/Monographs-Q&A_Vol114.pdf

赤肉の多い食事 : 3.4 万人と推定したとき、他の原因での推定です。

喫煙 : 年間 100 万人、アルコール : 60 万人、空気汚染 : 20 万人

10 月 29 日の WHO のニュース

加工肉と直腸結腸がんとの関連

<http://www.who.int/mediacentre/news/statements/2015/processed-meat-cancer/en/>

10 月 27 日、英国国民保健サービス (National Health Service、NHS) のニュースでは、1 日に 100g の赤肉を増やすと、直腸結腸がんのリスクが 17% (95%信頼区間 1.10~1.28)、加工肉 50g で 18% (95%信頼区間 1.05~1.31) 増えるとのデータを紹介しました。

<http://www.nhs.uk/news/2015/10October/Pages/Processed-meat-causes-cancer-warns-official-report.aspx>

6. カルシウムの摂取量の増加が骨の健康増進や骨折予防にならない?

ガイドラインで、高齢者の骨密度を上げ骨折予防のために、毎日 1,000~2,000mg のカルシウムを摂取させることに対して、ニュージーランドの研究では、カルシウム・サプリメントの摂取による骨密度の増加は極めて僅か (1~2%) で、骨折リスクとは関係がなかったとのこと。

http://www.eurekalert.org/pub_releases/2015-09/b-ici092515.php

7. 缶詰のリコール (米国 FDA)

米国 FDA のホームページに、「缶詰のボツリヌス菌汚染による回収」に関する記事が、10 月中旬からほぼ連日続いています。

10 月 21 日 <http://www.fda.gov/Safety/Recalls/ucm468554.htm>

10 月 26 日 <http://www.fda.gov/Safety/Recalls/ucm469689.htm>

10月27日 <http://www.fda.gov/Safety/Recalls/ucm469962.htm>

ボツリヌス菌による汚染のようで、その後も続いているようです。

<http://www.fda.gov/Safety/Recalls/default.htm>

8. FMSA でトレーニング (米国 FDA)

10月6日、米国 FDA は、公的部門と民間部門と一緒に FMSA トレーニングを促進する戦略を公表しました。FSMA の要求に見合う進んだ知識を、食品企業が得ることができるとしています。
<http://www.fda.gov/Food/NewsEvents/ConstituentUpdates/ucm465100.htm>

また、10月5日、FDA は、公衆衛生を支援するために、2つの新しい食品関連緊急演習をリリースしたとのこと。

<http://www.fda.gov/Food/NewsEvents/ConstituentUpdates/ucm465721.htm>

9. 南スーダンが CODEX187 番目の加盟国に

南スーダンは、CODEX 規格に基づく国家規格を開発することになります。

<http://www.codexalimentarius.org/roster/detail/en/c/340226/>

10. 輸入食品の違反事例

- ・富士通商株式会社が、インドから輸入した「冷凍養殖えび」およびベトナムから輸入した「加熱後摂取冷凍食品（冷凍直前未加熱：えび類）の命令検査で、フラゾリドン検出による成分規格され、廃棄、積戻し等が指示されました。
*フラゾリドン：ニトロフラン系の合成抗菌剤で、不検出（検出してはならない）とされる。
- ・阪和興業株式会社が、ベトナムから輸入した「冷凍養殖むきえび」の命令検査で、エンロフロキサシン 0.02ppm 検出による成分規格不適合とされ、廃棄、積戻し等が指示されました。
*エンロフロキサシン：ニューキノロン系の合成抗菌剤で、不検出とされる。
- ・豊通株式会社がミャンマーから輸入した「バター豆」の命令で、シアン化合物 510ppm 検出による成分規格不適合とされ、廃棄、積戻し等が指示されました。

(作成：2015年11月2日)